

インターバンクの声（2016 年 12 月 7 日）

昨夜のロンドン、ニューヨーク外国為替市場での円相場は、114 円を挟んで上下 20 ～30 銭の値幅に留まるレンジ内での取引が続いた。赤字額が増えた 10 月の米貿易収支や堅調だった米製造業受注などの指標結果にも目立った反応は見せず、ドルの上値が重いのか下値が堅いのかのヒントすら掴ませてくれなかった。

先日の石油輸出国機構 (OPEC) 総会では減産に合意したものの、11 月の同機構内の産油量は過去最高を記録したようで、今週末に開かれる OPEC 非加盟国の会議の行方によっては、また原油価格が下落し始めるかも知れない。OPEC 加盟国にも非加盟国にも合意を厳格に守るような信義を重んじない国も多く、今後は安易に合意に従って先行き判断することに慎重になったほうが良いかも知れない。

静かだった円相場に対し多少動きがあったユーロは、8 日の欧州中央銀行 (ECB) 理事会で債券の買い入れプログラムの期限が延長されるだろうとの見方が大勢だが、昨夜は調整の売りが入っていたようだ。ただ、週初のアジア市場で付けた 1.05 ドル台前半からはかなり買戻しが入っており、ユーロの弱気な先行き見通しにも簡単には乗り難い。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。